

# 図画工作科学習指導案

3年3組 30名 指導者 西郷 翔平

本授業は、以下の検証を行うものである。

題材の導入で光を視点とした感覚体験活動を設定し、そのことを想起させながら製作したり鑑賞したりする手立てを行うことは、図画工作科における「主体的に学習に取り組む態度」に着目した授業改善の手立てとして有効であったか。

## 1 題材 光サンドイッチ (工作)

## 2 目標

色紙などの材料の形や色を組み合わせることで光を通す活動を通して、光や色の感じのよさがわかるとともに、色の組合せや並べ方、トレーシングペーパーとの組合せ方などの表し方を自分なりに工夫することができるようにする。

## 3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 色紙などの材料を組み合わせることで光を通す活動を通して、光の色の感じのよさがわかっている。	○ 色の組合せ方や並べ方、トレーシングペーパーと組み合わせる時の光の感じなどから表し方を自分なりに考え、表している。	○ つくりだす喜びを味わい進んで色紙を組み合わせたり並べたりして、工作に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

## 4 題材について

### (1) 題材の位置とねらい

本題材は、色紙などの材料に光を通す活動を通して、光や色の感じのよさがわかったり、そのことから新たに発想を広げ、表し方を考える中でつくり出す喜びを味わったりすることができる工作に表す題材である。

この時期の子供たちは、初めから表したいものがはっきりしていることもあるが、対象や事象を見たり触れたりしながら表したいものの基になる自分のイメージをもち、作品などをつくる過程で更に表したいことを思い付く姿が見られる。また、ある程度対象や事象を客観的に捉えられるようになる時期でもある。

そこで、本題材では子供たちが活動を通して得た自分のイメージを基に、自由に何度も試行錯誤し、友達などと交流する中でまた新たに思い付くことができる活動を大切にする。そうすることで、本校図画工作科が育成を図る「自ら学ぶ子供」姿である「自らの学びを見つめ、自分なりに表したいことやものに向かって、つくり出す喜びを味わうこと」につなげることができるようにする。本題材で身に付けた資質・能力は、第4学年「見つけたよ、ためしたよ、形や色をたのしもう」といった形や色などの感じを基に絵に表す題材などにつながるものである。

### (2) 子供の実態

これまで子供たちは、「たのしいな、おもしろいな、かたちやいろをたのしもう」といった形や色そのものに着目し、造形的な見方を働かせ、絵に表す題材を行ってきている。本学級において、色の感じについて実態調査をすると、色を見て自分のイメージをもつことのできる子供が27名、できない子供は3名であった。赤色は、「りんご」「ザリガニ」など、青色は、「空」「海」など、黄色は「レモン」「バナナ」などと具体的なものを答える子供が多くおり、「赤は温かい」「黄色は明るい」といった色の感じを答える子供も数名いた。これらのことから多くの子供は生活経験や学習経験などから色などについて自分のイメージを概ねもっていることが分かる。また、一人一人の色に対するイメージは同じものもあれば、それぞれが異なることも分かる。そこで、本題材では一人一人がもっている色などに対するイメージを言語化し、活動を通して交流することで、更に豊かにすることができるようにしたい。

### (3) 指導上の留意点

本題材では、子供たちがそれぞれもっている形や色などについてのイメージを、製作や鑑賞を行う中で更に豊かにすることねらいとしている。そのために、指導においては常に一人一人がもっている形や色などについての感じ方を大切にするように留意したい。また、他者の感じ方と進んで交流したいと思うことができるような学習形態、活動時間に留意したい。

そこで、「思いをもつ」過程では、製作の導入として色水づくりを行い、できた色水を仲間分けする光を視点とした感覚体験を設定する。形や色などへの自他のイメージを言語化し交流することで、本題材においても色の組み合わせを意識して行うことができるようにする。「思いをふくらます／思いを表現する」過程においては、まずは試しの作品をつくる。その際、自分の作品づくりの中心になる色とそれに組み合わせる色を一つずつ選ぶようにし、色選びの根拠を交流する。そうすることで、本製作においても導入で行った色水づくりの感覚体験活動を想起しながら活動することができるようにする。「自他のよさに気付く／新たな思いをもつ」過程では、中間鑑賞会の時間を設定する。そうすることで、他者との「対話」を通して自分の形や色などについてのイメージを更に豊かにするとともに、「もっと工夫したい。」という子供の思いを生かした製作を行うことができるようにする。終末の鑑賞においては、掲示する場所を考えることで、製作を自身の生活とつないで考えていこうという意欲を高めることができるようにする。

## 5 指導計画（総時数3時間）

過程 (次)	主な学習活動	時間
思いをもつ	1 色水をつくり、仲間分け遊びを行う。	1
	2 参考作品と出合い、題材のめあてを捉える。 光を通す材料を使って、世界に一つだけの光サンドイッチをつくろう。	1 (本時)
思いを表現する	3 製作の手順を知り、試しの作品をつくってみる。	
	4 中間鑑賞会を行い、自他の作品の光や色の感じのよさを交流する。 5 中間鑑賞会を基に、つくりかえる。	
新たな思いをもつ	6 家庭などから持ち寄った材料を生かして製作を行う。 7 完成した作品を掲示する場所を考え（光が当たる場所）、実際に掲示して作品のよさを交流する。	1

## 6 本時（2／3）

### (1) 目標

色紙などの材料の形や色を組み合わせる活動を通して、色の組合せや並べ方などの表し方を自分なりに工夫することができるようにする。

### (2) 評価規準

色紙を組み合わせたり並べたりして、工作に表したり鑑賞したりする学習活動に試行錯誤しながら取り組もうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

### (3) 指導に当たって

「思いをもつ／思いをふくらます」過程では、参考作品を段階を追って提示する。そうすることで、製作の手順の大まかな見通しをもつことができるとともに、トレーシングペーパーを組み合わせることで光が透過することのよさに気付くことができるようにする。

「思いを表現する／自他のよさに気付く」過程では、互いの製作を鑑賞しながら製作が行えるように机の配置を工夫する。また、製作途中であっても自由に光の当たる場所へ行って鑑賞することができるよう声掛けを行う。自分なりの色紙の組合せが決まった段階で、中間鑑賞会を設定する。その際、作品の意図を交流することで色の組合せによって見る人の感じ方が異なることに気付くことができるようにする。

「新たな思いをもつ」過程では、中間鑑賞会後に製作を振り返り、製作中に生まれた思いや願いを取り上げることで、色だけでなく形などの工夫にも着目してつくりかえるといった表し方の工夫にも気付くことができるようにする。また、次時への見通しをもつ際には、家庭などで材料にできるものがないかを考える時間を設定する。そうすることで、学びに能動的に関わり、自らの生活とつなげて学習に取り組むことができるようにする。

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
思いをもつ／ 思いを表現する	5	<p>1 参考作品を見て、製作の見通しをもつ。</p> <p>〔 ・ 色紙でも光を当てると、光が透き通ってきれいに見えるね。 ・ 2 本時のめあてを立てる。 〕</p> <p>どんな色を組み合わせたら、きれいで楽しい作品ができるかな。</p>	<p>○ 参考作品を段階を追って提示することで、作品づくりへの意欲を高めるだけでなく、製作の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ 製作の見通しをもった上でめあてを考えることで、必要感のあるめあてを考えることができるようにする。</p>
思いを表現する／ 自他のよさに気付く	15	<p>3 製作の手順を確認し、活動の見通しをもつ。</p> <p>〔 ・ 色紙の色が内側になるように気を付けたいといけなだね。 ・ トレーシングペーパーを見る方に付けると、光が透き通るね。 〕</p> <p>4 色紙の組み合わせを考えて、試しの作品をつくってみる。</p> <p>〔 ・ 色水づくりで青が透き通って、海みたいに見えたから、青を使いたいな。 ・ 赤を中心の色にして、オレンジと一緒に使いたいな。炎の作品になりそうだよ。 〕</p> <p>5 自他の作品を鑑賞し、作品のよさについて交流する。</p> <p>〔 ・ 赤の色紙をたくさん使うとトマトみたいに見えるね。 ・ 濃い色の色紙を使うと光も濃くなって、薄い色の色紙を使うと光も優しい感じになるんだね。 ・ 中に入れる色紙の輪っかの大きさも変えたら面白いね。 〕</p>	<p>○ 板書を用いて手順を簡潔に提示することで、製作の途中にも板書を見て製作を行うことができるようにする。</p> <p>○ トレーシングペーパーの有無を比較して提示することで、そのよさに気付くことができるようにする。</p> <p>○ グループ形態をとることで、子供が製作しながら自然と互いの作品を鑑賞し合うことができるようにする。</p> <p>○ 試しの製作において、中心となる色と組み合わせる色を選択させることで、色水づくりを想起しながら色の感じや組み合わせ方を意識して製作を行うことができるようにする。</p> <p>○ 製作の途中にも自由に光を当てて鑑賞してもよいことを告げることで、製作と鑑賞を行き来しながら作りかえることができるようにする。</p> <p>○ 鑑賞する際には、作品のよさを問い返すことで、色水づくりで行った色の組合せなどを想起して鑑賞活動を行うことができるようにする。</p>
新たな思いをもつ	25	<p>6 鑑賞したことを生かして、更にどのような工夫ができるか考え、作りかえる。</p> <p>〔 ・ もっと○○みたいな作品にしたいから、周りの画用紙の形を変えてもいいかな。 ・ 中に入れる色紙もいろいろな形を組み合わせたら面白そうだね。 〕</p> <p>7 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>色を組み合わせるだけではなく、形も考えて組み合わせるともっと楽しいよ。</p> <p>8 次時への見通しをもつ。</p> <p>〔 ・ 今日は色紙だけでつくったけど、カラーセロハンを入れたらもっときれいになりそうだね。 ・ 家には、どんなものがあるかな。 〕</p>	<p>○ 鑑賞した後に「もっと工夫できることはないか。」を問うことで、色紙の形などの工夫にも着目することができるようにする。</p> <p>○ 材料を十分用意することで、自由に何度も試行錯誤することができるようにする。</p> <p>※ 色紙を組み合わせたり並べたりして、工作に表したり鑑賞したりする学習活動に試行錯誤しながら取り組もうとしている。</p> <p>(活動の様子)【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○ 次時への見通しをもつ際に、自分たちの身の回りにある材料を考える時間をとることで、自分から能動的に学びに取り組もうとすることができるようにする。</p>